

お住まい拝見

Aさん宅

変形地と予算の壁クリア



敷地東側から見た外観。左手の隣家との間には2項道路があるため、建物を北西(右奥)側に後退。夫妻の要望だった2台分の駐車スペースも確保した。2項道路や駐車場に面した開口部は、風通しや周囲の緑を借景に取り込める位置で設けられている

撮影:高野生優(フォートアートたかの)

「敷地は約36坪で狭く、台形のような形」「建築費は2500万円以下」「車がよく通る道路に敷地が面していて、近くには古い歓楽街がある」。本島南部に住むAさん(40)の家造りは、厳しい条件が重なった。設計者探しも難航し、ようやく出会ったのは、住宅情報紙で見た、狭小地や変形地での設計を手掛けた建築士だった。「2人の子どもが元気に家中を走り回るほどの伸びやかな住まい」は、どう実現したのか。

子ども中心に機能的に



2階和室から正面のダイニング・キッチンを見る。右手のリビングが斜めにレイアウトされていることで、ダイニングや和室との程よい距離感を生む

2階は適度な距離感

Aさん宅はLDKや和室のある2階が、一家の生活の中心。キッチンからダイニング、和室とつながり、和室の隣は、台形のリビングになっている。

「友だち家族が遊びに来ると、カミさんたちはダイニング、旦那たちは和室、ちびっ子たちはリビングに集まります。みんなでワイワイおしゃべりしてたかと思えば、それぞれの場所で楽しんでいる。つかず離れずの距離感がいい。デッキに腰掛けての一杯も最高です」と、Aさんは顔をほころばせる。

夫人は、子どもの様子がいつも感じられる上に便利な造りを重宝している。「キッチンで作業していても、ダイニング側のカウンターで宿題をする長男の姿が見えるし、階段の吹き抜けからは、次男のはしゃぐ声が聞こえてくる。急な来客があっても、キッチンは引き戸で目隠しできるから、助かっています」とほほ笑む。

「和室の床が30センチ高くなっているのは、腰掛けやすさを考えて、ダイニングにいる人と視線がそろうからなんです」と、建築士顔負けに家の造りを説明する夫人の表情は、とてもうれしそうだ。

生活スタイル見直す

夫妻が求めた土地は、互いの職場に近く、交通の便がいい南部の土地。住宅情報紙の記事で気になっていた建築士の完成見学会に足を運んだ。「思い切って建築士さんに相談したんです。予算や敷地の条件が厳しいのに相手にしてくれるのかと不安でしたが、『デメリットは、設計次第でメリットに変えられます。予算以上に満足できる家を造りましょう』と言ってくださったんです。勇気をもらいましたね」。また夫妻と同じ世代で子育て真っただ中で共感することが多かったこと、説明が具体的で、責任感の強い人柄も依頼の決め手になった。

建築士と家造りを進める中で夫妻が分かったのは、自分たちにとって必要なのは「子どもを中心に、機能的に暮らせる住まい」ということ。

「家を建てたことで、わたしたちのライフスタイルを見直すいい機会になりました。工程会議もほぼ毎週あって大変でしたが、その分、家への愛着が深まりました。家の造りを一つひとつ説明できるくらい分かってないと、家は守れないと思う」と夫妻は口をそろえる。

「現場の職人など、家造りに携わったすべての人に感謝したい」と夫妻。「改正建築基準法や建築資材の高騰も重なったけど、熱意といい出会いがあれば、厳しい条件でもマイホームは実現できる」と語る夫妻の表情は、晴れ晴れとしていた。(我那覇宗貴)



ダイニングに対面したキッチン。システムキッチンと背後の収納の扉は、夫妻の好きなイタリアンレッドに



和室に隣接するデッキ。奥には、周辺の繁華街の風景を目隠しする腰壁があるベランダが続く。庇(ひさし)が深いので、来客が多い時には、和室の延長としても使いやすくなっている



1階玄関ホール。吹き抜けの階段は、上下階に居る家族の声や足音を伝える

快
裏
方
さん
適
つ
る

義空間設計工房に聞く設計のポイント

渦巻き状に配置 広さ演出

Aさん宅では、敷地北側に車の通行が多い前面道路があること、南側は人通りの少ない「2項道路」があって、道路の中心線から建物を2メートル後退させなくてはならないことを踏まえて、以下の3点を中心に設計していきました。

(1) 狭く変形した敷地でのプランニング

敷地の形に沿いつつ、道路からの騒音や視線をかわすため、建物を北西側に寄せて配置。間取りは、高い建物がない南東に向けて開き、玄関ホールを軸に、ほら貝のような渦巻き状に各部屋をレイアウトしました。それによって、変形した建物であっても、実際の床面積以上の広がりを感じさせる効果があります。

夫妻は「北西にキッチンや水回り、南に床の間」という家相に則ることも望んでいたことから、LDKなどは風通しや日当たりのいい2階に、主寝室や子ども室、水回りは1階にそれぞれ充てました。収納は西側にまとめ、ふく射熱が居室に行かないように配慮しました。

(2) 建築費を2500万円以下に抑える

階高を抑えたほか、2階のスラブに直接コルクタイルを張るなどして、仕上げを簡素に。キッチンも背後にある収納扉は既製品を使い、棚は手作りしました。トイレの壁もタイル張りではなく、ペイントで仕上げています。

一方、建物の耐久性にかかわる屋上の遮熱・防水塗装は質の高い塗料を使っています。

建築費は最終的に、地盤補強や外構工事を含め、税込2350万円に収まりました。

ただし、資材価格などが2008年の建築当時とは違うことから、現在その価格で造るのは難しいのも確かです。

手入れのしやすさにも配慮して、室内の壁は自然素材で汚れも落としやすい漆喰ペイントを使っています。

(3) 室内からの見え方

2階のベランダの腰壁は、建物周辺にある繁華街が見えない高さで造ったほか、前面・2項道路の背後に広がる門中墓の木々を借景に取り込むように開口部を設け、室内に居ながら緑を感じられるように工夫しました。

Aさん宅は、夫妻の熱意があったからこそ実現できたといえます。建築士としても工夫のしがいがある

り、お手伝いできたことを誇りに思います。

「つないで・仕切って」を自在に

ライフスタイルの変化に合わせて柔軟に使えるよう、引き戸や折れ戸といった建具を巧みに使うことで、部屋をつないだり、仕切ったりできる造りにしているのも、Aさん宅ならではの工夫だ。



和室を仕切る障子は折れ戸になっていて、使わないときは右手の造り付け収納に片付けられる



1階子ども室。奥の主寝室とも引き戸で仕切れる

目隠し・冷房効率アップも



ダイニングとキッチン間に引き戸を設けて、来客時もサッと目隠し(写真右)。写真右端の廊下側にも折れ戸を用意し、エアコンの冷気を1階に逃さないように配慮されている

建築データ

家族構成：夫婦、子ども2人
敷地面積：118.71平方メートル(約35.9坪)
1階床面積：56.71平方メートル(約17.2坪)
2階床面積：53.19平方メートル(約16.1坪)
建ぺい率：55.11%(角地緩和で許容90%)
容積率：92.58%(許容200%)
用途地域：近隣商業地域
躯体構造：鉄筋コンクリート造壁式構造

設計：(有)義空間設計工房 伊良波 朝義、金城 治奈
構造：バス建築研究室 新川 清則
設備：(株)設備計画 中谷 浩、名嘉 啓一郎
施工：(有)友建産業 玉城 真人
電気：榮電舎 大城 守之
水道：(有)丸栄電気水道工業 城間 一樹
キッチン・バス：(株)大和工業 阿賀嶺 誠



人と暮らしの間に 沖縄タイムス

購読申込みはこちら



(株)タイムス住宅新聞社・週刊「タイムス住宅新聞」編集部
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売などは固くお断りします。
Unauthorized redistribution of my data is strictly prohibited
